

那覇・首里城全焼

7棟焼失 正殿から出火か

31日午前2時40分ごろ、那覇市の首里城で煙が上がっている。



首里城 1429～1879年に続いた琉球王国で中心的役割を果たした城。国王の執務室や行政施設からなり、正殿は2層3階建ての造りや竜の彫刻が施された柱といった独自の形式を持っている。1925年に正殿が国宝に指定されたが、太平洋戦争で建物は全て焼失した。92年に主要施設が復元され、2000年の九州・沖縄サミットでは北殿が首脳夕食会場となった。同年、首里城跡を含む「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」が世界遺産に登録された。

警備会社から119番があった。正殿などが激しい炎を上げて燃え、正殿と北殿、南殿が全焼するなど主要7棟の計約4800平方メートルが焼失。同日時に鎮圧状態となった。周辺住民30人以上が一時避難したが、けが人の情報はない。市消防局は一年に世界文化遺産に登録された。正殿から火が出た可能性が高く、那覇市長は「県民のシンボルを失った。衝撃を受けている」と語った。文化庁は調査官を現地へ派遣する調整に入った。首里城は太平洋戦争で全て焼失、1992年に降に主な施設が復元された。復元の建物自体は対象外だが、首里城跡を含む「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」は2000年に登録された。署や市消防局などによると、正殿は木造、南殿と北殿は鉄骨を一部使った木造。近接する「黄金御殿(くがにうどうん)」「書院・鎖之間(さすのま)」「二階御殿(にがいどうん)」もほぼ全焼した。「奉神門」にも火が移り、焼失した。少なくとも正殿と南殿、北殿にはスプリンクラーが設置されていた。市消防局は法的な設置義務はないとしている。

2019年
10月31日夕刊

今月27日から琉球王国の儀式を再現するイベント「首里城祭」が開かれており、少なくとも30日深夜まで関係者が作業をしていたが、出火時は無人だったとみられる。自動火災報知設備が反応し、正殿から煙が上がっているのを警備員が確認した。

①文化財が焼失してしまった際の文化的ダメージを考察し、どのように回復すると良いか具体的な提言をせよ。

②琉球王朝の歴史を調べ、静岡県との関りについて考察せよ。

③文化財を保護しながら公開するとして、どのような手段を講ずれば効果的か考察せよ。

年 組 名前